

2008年10月号 目次

【トピックス】

食品等の苦情品検査(その1)	1
細菌性食中毒検査結果	12
医動物検査	13
平成20年度 屋外プールの水質実態調査	15

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 9月	16
感染症発生動向調査における病原体検査 9月	19

【検査結果】

由来別病原菌検出状況 9月	20
-------------------------	----

【情報提供】

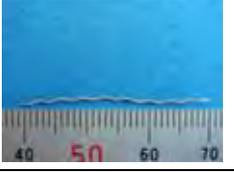
第15回 衛生研究所施設公開を終えて	21
衛生研究所WEBページ情報(20年度9月分)	22

食品等の苦情品検査(その1)

平成20年度上半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために当所へ搬入された検体は、78件、114検体(残留農薬関連を除く)でした。今年度も苦情品の増加の傾向が見られ、半期で平成15、16年度のほぼ1年分の件数(各74、71件)が届け出されました。苦情の内容は様々ですが、理化学検査を中心に行った主な検体(56検体)の検査結果は次のとおりです。

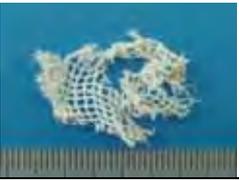
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ゴマサバ中の異物	ゴマサバにプラスチック様の異物が付着していた。 	外観 燃焼性 赤外分光分析 結果	大きさ37mm×15mm。無色透明なフィルム状の固まり。 炎で加熱すると、タンパク質を焼いた臭いを発して黒くなった。さらに、加熱すると白色の硬い固まりが残った。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後、骨を灰化したものと同様な吸収スペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
クッキー中の異物	クッキーを食べようと、割ったところ繊維状の異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 リグニン反応 結果	長さ13mm×太さ0.16mm。淡褐色の繊維状の物質。 縦に縞が認められた。断面に植物の維管束を認めた。当所で用意したタワシの毛(ココナッツ繊維等)と同様であった。 タワシの毛と同様な吸収スペクトルを認めた。 陽性。 ココナッツ等の植物繊維(タワシの毛)と推定された。
ロールパン中の異物	金属異物を認めた。 	外観 磁性 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ7.5mm×0.4mm、重さ8mgと大きさ7.3mm×0.4mm、重さ7.8mgの2個の銀色の金属片。 磁性を認めた。 片端は折れちぎれた状態で、反対端は刃物で切断された状態であった。全体の形状は参考品(ステープラーの針)に類似していた。 表面に亜鉛の元素を、断面の部分(内部)には鉄の元素を認めた。 亜鉛メッキされた鉄の金属片と推定された。参考品の針に組成及び形状が似ていた。
ロールパン中の異物	金属の小片が付いていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ0.8mm×0.5mmと0.7mm×0.35mmの銀色の小片。 片面は滑らかであり、反対面は多段の層になっていた。 アルミニウムの元素を認めた。 アルミニウム片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ロールパン 中の異物	緑色の斑点を認め た。 	外観 デジタルマイクローブ 赤外分光分析 結果	大きさ5mm×2mm、重さ1.5mg。緑色のプラスチック 様の固まり。 片側は滑らかであり、反対面はざらざらしていた。 ポリプロピレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認め た。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
ロールパン 中の異物	金属片を認め た。 	外観 磁性 デジタルマイクローブ マイクロアナライザー 結果	大きさ2mm×0.6mm、重さ0.7mg。銀色の金属様の 固まり。 磁性を認めた。 削り取られた跡を認めた。 鉄の元素を認めた。 鉄の破片と推定された。
ロールパン 中の異物	小さな金属片を認 めた。 	外観 磁性 デジタルマイクローブ マイクロアナライザー 結果	大きさ1.8mm×0.5mm、重さ0.3mg。銀色の金属様の 固まり。 磁性を認めた。 削り取られた金属面を認めた。 鉄の元素を認めた。 鉄の破片と推定された。 オープン天板の底の部分に削られたキズが多数 認められた。オープンへ出し入れ時に、削り取られ たことが考えられた。
ベニズワイガ ニ	甲羅の内部が黒く なっていた。 	外観 官能試験 揮発性塩基窒素 pH 結果 参考	甲羅の内側が黒くなっていたが脚の部分の肉は異 常はなく新鮮な状態であった。 腐敗臭は認められなかった。 揮発性塩基窒素:10mg%。 8.1。 可食部は新鮮な状態であった。 カニ甲羅内の黒変は、カニ肉に含まれるチロシン が酸化酵素チロシナーゼにより酸化されて、メラニ ンが生成されたものといわれている。
豚骨中の異 物	黒い固まりが入っ ていた。 	外観 デジタルマイクローブ マイクロアナライザー 磁性 結果	大きさ2mm×1mm、厚さ0.5mm、重さ6.1mg。 黒灰色の三角形の金属片。 一片に破断面を認めた。 なお、刃先の角度は53度であった。 鉄の元素を認めた。 磁性を有する。 鉄の破片で、参考品であるバンドソーの刃の組成 や形状が類似していた。
メンマ	食べたら、薬品の 臭いがした。	官能検査 GC/MS 結果	わずかに薬品臭を認めた。 グアヤコール等を認めた。 グアヤコール:0.6ppm 薬品臭の原因物質はグアヤコールと推定された。

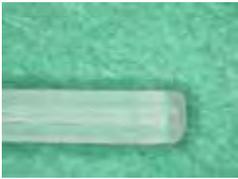
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
おにぎり中の異物	プラスチック片が付いていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ8mm×6mmの淡青色のフィルム片で、一片が伸びた状態であった。 四角形の繰り返し模様を認めた。 ポリエチレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン樹脂のフィルム片で、参考品の手袋の模様に類似していた。
ハンバーグ中の異物	金属の針金が入っていた。 	外観 磁性 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	長さ31mm、太さ0.34mm、重さ21.6mg。銀色の波状の針金。 弱い磁性を認めた。 異物の曲がりの周期は4mmであった。 鉄、クロム、ニッケル、マンガン、ケイ素の元素を認めた。 ステンレス製の針金で網の一部と推定された。
スライスチーズ中の異物	チーズの中に大きなプラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ40mm×幅2.5mm、厚さ2mm、重さ0.2g。灰白色で弧状のゴム様の柔軟性のある固まりであった。異物の外周部は不規則な凹凸が見られた。 対照品のシリコンパッキン(金属無)と同様なこすれたキズを認めた。また、異物のカーブは対照品の内側部分にほぼ一致した。 シリコン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。対照品のシリコンパッキン(金属無)と類似していた。 対照品のシリコンパッキン(金属無)の破片と推定された。
油揚げ中の異物	油揚げに金属片が付着していた。 	外観 磁性 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ3.3mm×0.6mm、重さ0.3mg。銀色の金属片。 磁性は認められなかった。 削られた跡を認めた。 アルミニウムの元素を認めた。 削り取られたアルミニウム片と推定された。
オレンジの袋の白い付着物	袋の数箇所に白い付着物が見られた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 結果	オレンジの外袋の内側の所々に、白い斑点状の付着物を認めた。 白い斑点部分を拡大すると透明な薄片状の固まりを認めた。別に、オレンジの皮部分を軽く絞って得られた精油を乾かしたものに類似していた。 白色部分をかきとり測定したところ、オレンジの皮部分の精油を乾かしてエタノール、水で洗浄後の残渣の白色物の吸収スペクトルと同様であった。 オレンジの皮の精油成分の一部と推定された。
紅かぶ漬中の異物	食事中に口の中をけがした。異物を認めた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ16mm×幅1mm、長さ6mm×幅1mm、長さ6mm×幅1mm、各重さ14.7mg、3.5mg、3.3mgの3個。 白色の硬い棒状の固まり。 先端は鋭くとがり、断面は三角形で、当所で用意したカサゴの腹鰭棘と形状等が類似していた。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは骨を灰化したものと同様な吸収スペクトルを認めた。 魚の骨の破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ホイップクリーム中の異物	<p>開封したら黒い異物が多数認められた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクروسコープ</p> <p>磁性</p> <p>溶解性</p> <p>走査型電子顕微鏡</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>1mm以下から2mm×2mm大の黒色の柔らかな固まりを多数認めた。</p> <p>黒い固まりは全体又は部分的に黒く、その中に金属光沢の小片が数個見られた。</p> <p>金属光沢片、及び黒色粉末は磁性を有した。</p> <p>溶剤(アセトン、エーテル、水等)で脂質を溶かし、遠心分離すると、黒い細かな粉末と0.2～0.3mm大の金属片を認めた。</p> <p>金属光沢の固まりは20μm×40μm大の薄片の集まり。黒い固まりは10μm大の薄片の集まりであった。</p> <p>金属光沢片、及び黒色粉末は鉄、クロム、ニッケル、マンガンの元素が認められた。</p> <p>ステンレスの削れた金属片と粉末が脂質に混ざり固まったものと推定された。</p>
給食(ミネストローネ)中の異物	<p>金属の針がでてきた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクروسコープ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>対照品</p> <p>結果</p>	<p>長さ40mm×太さ0.4mm、重さ52mg。</p> <p>金色の金属針金。</p> <p>先端は鋭く尖っていた。反対側の端は垂直に切れており、U字型に曲がっていた。</p> <p>銅と亜鉛の元素を認めた。</p> <p>当所で用意した赤い羽のピン部分と長さ40mm×太さ0.4mm等の形状が似ていた。</p> <p>真鍮製のピンと推定された。</p>
野菜てんぷら中の異物	<p>野菜てんぷらに乗せた皿に茶色のガラス片があった。</p>	<p>外観</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>大きさ8mm×5mm、厚さ2mm、重さ0.13g。</p> <p>褐色で四角形のガラス様の固まりで、一方が尖った状態であった。</p> <p>ガラスと同様な吸収スペクトルを認めた。</p> <p>褐色ガラスの破片と推定された。</p>
パン中の異物	<p>パンの中にゴム状の異物が混入していた。</p> 	<p>外観</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>大きさ6mm×3mm×2mm、2mm×2mm×2mm、各重さ30mg、8mg。不定形で灰色の弾力のある固まりで、表面にパンの付着を認めた。</p> <p>参考品のシリコンコークと同様な吸収スペクトルを認めた。</p> <p>シール剤シリコンコークの破片と推定された。</p>
太刀魚切身中の異物	<p>調理して食べたところ中から小石状の異物がでてきた。</p> 	<p>外観</p> <p>燃焼性</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>大きさ15mm×12mm、厚さ6mm、重さ0.64g。</p> <p>象牙色の丸い硬い固まり。</p> <p>加熱すると燃えて黒くなり、さらに加熱すると白色の固まりが残った。</p> <p>骨と類似した吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは骨を灰化したものと同様な吸収スペクトルを認めた。</p> <p>骨の固まりと推定された。</p>

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
餃子中の異物	食べていたら違和感を感じ、口から出すと木屑のようなものが出てきた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ5mm×2mm～10mm×2mm、重さ1mg～5mg。薄黄色で弾力のある繊維状の固まり数片。表面に植物性の細胞と中心に縦に走る繊維を認めた。当所で用意したキャベツの芯の木質部分に類似していた。 異物の吸収スペクトルは当所で用意したキャベツの芯の木質部分と類似していた。 陽性。当所で用意したキャベツの芯の木質部分も陽性。 植物性の繊維で木質部分が発達したものと推定された。(原材料から、キャベツの芯の木質部分と考えられた。)
紅茶飲料	飲んだところ、酸っぱさと、苦味を感じた。 	外観 pH 溶解性 官能試験 赤外分光分析 細菌検査 結果	内容物は二層に分離していた。 3.9 分離した液をろ紙でろ過すると、粘度のある透明な液が得られた。この透明な液にエタノールを加えると白色の繊維状の固まりが析出した。 数名で臭いを嗅いだところ、酸味臭が認められた。白色の固まりは、多糖類に似た吸収スペクトルが認められた。 乳酸菌 (<i>Leuconostoc mesenteroides</i>) を検出。 乳酸菌による発酵と推定された。
いわし中の異物	食べようとしたら、ビニール片がでてきた。 	外観 赤外分光分析 対照品(当日の食材の包装材料) 結果	長さ7cm、幅2mm、重さ6.3mg。不定形で無色透明のフィルム。 ポリエチレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 いわしの袋:ポリエチレン、せんぎり大根の袋:ポリプロピレン、削りぶしの袋:ポリエチレン、ポリプロピレン他、砂糖袋:ポリエチレン ポリエチレン樹脂のフィルム片と推定された。
小松菜に付着した異物	小松菜の茎に、緑色の固まりが付いていた。 	外観 デジタルマイクログラフ LC/MS 結果	小松菜の茎の一部に、大きさ1mm以下～4mm×3mmの青緑色の小さな付着物を認めた。 全体には青緑色で、部分的に淡褐色や白色の小片が混ざった固まりであった。当所で用意した緑色の殺虫剤(カルバリルの粒剤)に似ていた。 カルバリル:2.7%(異物中) カルバリルの粒剤と推定された。
ヌードルスープ中の異物	食べていたら、硬い固まりがあった。 	外観 デジタルマイクログラフ 光学透過顕微鏡 リグニン反応 結果	大きさ2.6mm×2mm、厚さ0.5mm、重さ0.7mg。白色の四角形の固まり。 植物の細胞を認めた。 木部と道管を認めた。 陽性。 植物の木質部分の一部と推定された。

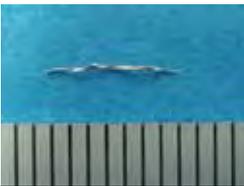
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
白桃ゼリー中の異物	ゼリーの中にホチキスの針が入っていた。 	外観 磁性 デジタルマイクロスコーブ マイクロアナライザー 結果	長さ約20mm×幅0.5mm×厚さ0.3mm、重さ20mg。一部に茶褐色の錆びがみられる銀色の針金。磁性を帯びていた。両端は楔型に尖っており、表面の所々に樹脂様の被膜が見られた。亜鉛と鉄の元素を認めた。ステープラーの針と推定された。
ふりかけ中の異物	緑色の固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 赤外分光分析 結果	長さ17mm×幅1mm、重さ4.8mg。不定形で深緑色のフィルム様の固まり。中央部に2箇所薄く延びた部分と表面の所々に熱で熔融した跡を認めた。ポリエチレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。ポリエチレン樹脂の破片と推定された。
コッペパン中の異物	黒い固まりが入っていた。 	外観 溶解性 燃焼性 デジタルマイクロスコーブ 鉄の定性反応 結果	長さ7mm×幅5mm、3mm×2.5mm、各重さ28.6mgと4.1mg。2個の黒色の不定形の固まり。褐色の固まりは濃塩酸に溶け黄色の液になった。加熱すると油のこげた臭いを発し燃えて最後に赤褐色の多孔質の固まりが残った。表面は凹凸した不定形で多孔質の固まり。陽性。黄色液はチオシアン酸アンモニウム溶液で赤変した。コゲと鉄サビの固まりと推定された。
ちくわ揚げ中の異物	硬い固まりがちくわの中に入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 磁性 溶解性 鉄の定性反応 原子吸光 結果	0.5mm×0.5mm～4mm×2mm、全量230mg(大きいもの40.6mg)。不定形の黒色の硬い固まり。表面は灰黒色で一部が赤褐色になっていた。磁性を認めた。濃塩酸に解けて黄色の液になった。チオシアン酸アンモニウム溶液で赤変した。鉄(60%)を認めた。鉄サビと推定された。
まぜごはん中の異物	繊維の固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 赤外分光分析 結果	30mm×30mm、重さ68mg。白色で網状のもの。繊維の間隔は約1mmで縦横繊維は1本と4本で編んであった。木綿とポリエステル混紡繊維と同様な吸収スペクトルを認めた。木綿とポリエステルの混紡繊維の切れ端と推定された。
食パン中の異物	白いカビの様なものがついていていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 結果	食パンの底の部分に白い粉状のものが付着していた。細かな白い粒状のもの集まりを認めた。陽性。小麦粉のデンプン粒を認めた。小麦粉と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ラーメン中の異物	<p>硬い固まりが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>性状</p> <p>デジタルマイクロスコープ</p> <p>リグニン反応</p> <p>結果</p>	<p>25mm × 5mm × 1mm、重さ85mg。淡黄色の不定形の固まり。</p> <p>水にふやけて柔らかくなった。</p> <p>横にスジが6本入った固まり。切片をつくり観察すると、植物細胞と道管を認めた。</p> <p>繊維部分が陽性。</p> <p>植物の切れ端と推定された。</p>
ソフトキャンデー中の異物	<p>プラスチック様の固まりが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクロスコープ</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>3mm × 2mm、重さ3mg。無色透明の台形の固まり。透明で片面は平らで反対面は盛り上がった状態、縁は全体に丸くなっていた。</p> <p>対照品の原料ゼラチンと同様な吸収スペクトルを認めた。</p> <p>ゼラチン(原料)の破片と推定された。</p>
ソフトキャンデー中の異物	<p>石のような固まりが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクロスコープ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>3mm × 2mm × 2mm、重さ20.8mg。黒色の四角形の硬い固まり。</p> <p>拡大すると表面のところどころに白色又は透明の石英の結晶を認めた。</p> <p>酸素、ケイ素、アルミニウム、鉄、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、カリウムを認めた。</p> <p>鉱物(石)の破片と推定された。</p>
ハンバーグ中の異物	<p>配膳中にハンバーグの上に異物を見つけた。</p> 	<p>外観</p> <p>官能試験</p> <p>溶解性</p> <p>溶解性</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>12mm × 4mm × 2mm、重さ102mg。灰青色した柔らかな固まり。</p> <p>わずかに芳香臭を認めた。(参考品は粘土の油の臭いを認めた)</p> <p>エーテルに溶かすと白い微粉末が残り、エーテルに樹脂状のものが溶けていた。</p> <p>塩酸に発泡して溶けた。</p> <p>青い柔らかな樹脂状のものが残った。</p> <p>炭酸カルシウムを主とする吸収スペクトルを認めた。(参考品の緑と青緑の粘土と類似していた。)</p> <p>炭酸カルシウムを主剤とする粘土の固まりと推定された。</p>
炭酸飲料中の異物	<p>異物が入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>ヨウ素デンプン反応</p> <p>光学透過顕微鏡</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>液体内に大きさ1mm以下～4mm × 3mmの黒色の細かな固まりを多数認めた。</p> <p>陽性。</p> <p>小麦のデンプン粒を認めた。</p> <p>パン様の固まりは小麦粉と類似した吸収スペクトルを認めた。また、肉様の固まりはタンパク質と類似した吸収スペクトルを認めた。</p> <p>異物はパンと肉の破片と推定された。</p>

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
給食(豚肉トマト煮)中の異物	白い硬い異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 結果	11mm×5mm×1mm、重さ31mg。 白色の硬い薄片。 片面は滑らかで、反対面は凹凸のある生物の組織を認めた。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後は骨を灰化したもの(アパタイト)と同様な吸収スペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
給食(変わり五目豆)中の異物	黒い硬い固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクログラフ マイクロアナライザー 結果	大きさ5mm×4.5mm×2.5mm、重さ65mg。 黒色の硬い固まり。 片側は滑らかな人工的に加工された状態、反対面は数個のくぼみのある状態。 酸素、炭素、チタン、ケイ素、マンガン、クロム、アルミニウム、カルシウム、カリウム、ナトリウム、マグネシウムの元素を認めた。 チタン、マンガン、クロム等を含むセラミックの破片と推定された。
給食(とうがんすまし汁)中の異物	プラスチック異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 結果	長さ35mm×太さ0.8mm、重さ18.5mg。無色半透明のプラスチックの紐状のもの。 先端部分はやや丸く、その表面に細かな傷を多数認めた。先端から約30mm部分に凹んで変形している部分を認めた。全体に縦に細かなスジを認めた。また、先端から約15mm部分に横に傷を認めた。 ナイロンと同様な吸収スペクトルを認めた。 異物はブラシ等の繊維の抜けたものと推定された。
手巻き寿司中の異物	プラスチック様の固まりが入っていた。 	外観 燃焼性 キサントプロテイン反応 赤外分光分析 結果	大きさ16mm×6mm、厚さ0.4mm、重さ32mgの白色半透明の三角形の薄片。 加熱すると魚を焼いた臭いを発し黒く炭化した。さらに加熱すると白い固まりが残った。 表面のほとんどの部分が陽性(タンパク質を認めた)。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後は骨を灰化したもの(アパタイト)と同様な吸収スペクトルを認めた。 魚の骨の破片と推定された。
カレー	フタの部分に泡を認めた。洗剤が付いているのはいいか。	官能試験 陰イオン界面活性剤 結果	カレーは異味異臭を認めない。 容器のふたの内側に認める。(ふたの約半分(ねじ部分も含む)を水で湿したガーゼでふき取り、20mlの水に溶かして試験溶液としたところ、使用洗剤を標準として0.28%(試験溶液あたり)を検出した。)フタの内側にかなりの洗剤を認めた。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
給食(煮物)中の異物	黒いプラスチック様な固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 結果	長さ23mm×太さ0.5mm、重さ4.1mg。 黒色のひも状の物質。 表面は全体に滑らかであり、太さは一定であった。 片方の先端は斜めに切れており、他方はぎざぎざした丸い切り口であった。 ポリ塩化ビニル樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリ塩化ビニル樹脂製品の一部と推定された。
手巻きおにぎり中の異物	おにぎりの具の中にウィンナーソーセージが入っていた。 	外観 燃焼性 デジタルマイクログラフ 結果	6mm×6mm×3mmが2個、6mm×2mm×3mm、10mm×8mm×5mmの計4個、重さ0.5gの肉色の固まり。 加熱すると、魚を焼いた臭いを発した。 切片をつくり、メチレンブルーで染色すると、丸い卵の集合体を認めた。周りを薄い膜で覆われていた。 未熟な魚卵(たらこ)と推定された。
しゅうまい中の異物	プラスチックのフィルム様の固まりが入っていた。 	外観 赤外分光分析 結果	長さ25cm×2mm～8mm、重さ0.20g。 白色半透明の樹脂様の破片。 参考品の手袋と同様なポリ塩化ビニルの吸収スペクトルを認めた。 製造所で使用していたポリ塩化ビニルの手袋の破片の一部であった。
洋菓子(チョコレート菓子)中の異物	ガラス片の様ものが入っていた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 結果	2.1mm×1.3mm、重さ0.8mg。 無色透明のガラス様の固まり。 鋭くかけた角や貝殻状の破断面を認めた。 ガラスと同様な吸収スペクトルを認めた。 ガラスの破片と推定された。
プリンムースケーキ中の異物	硬い異物が入っていた。かんだ時、歯が欠けてしまった。 	外観 溶解性 ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 走査電子顕微鏡 結果	5mm×3mm×1mm、重さ11mg。 白色の硬い固まり。 水にふやけて、微細粒子になった。 陽性。 ご飯と同様なデンプン粒を認めた。 ご飯と同様なデンプン粒を認めた。 ご飯の乾燥したものと推定された。
ケーキ	シンナー臭がした。	官能試験 GC/MS 細菌検査 結果	酢酸エチル臭を認めた。 酢酸エチル520ppm 酵母検出。 発酵による酢酸エチルの発生と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
いなり寿司中の異物	<p>食べてたところ、金属の固まりが出てきた。</p> 	<p>外観</p> <p>磁性</p> <p>デジタルマイクログラフ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>対照品検査</p> <p>結果</p>	<p>長さ32mm×幅1.8mm×厚さ1mm、重さ0.31g。銀色で硬質の針金様の金属片であり、しの字型をしていた。</p> <p>磁性なし。細かく切ると磁性を帯びた。</p> <p>断面は半円状、両断は切断された状態であった。</p> <p>鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。</p> <p>対照品の割りピン:鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。</p> <p>ステンレスの加工された金属片と推定された。</p> <p>対照品の炊飯ラインで使用されている割りピンと組成や形態が類似していた。</p>
クリームシチュー中の異物	<p>フィルム様の固まりが入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクログラフ</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>大きさ22mm×15mm、重さ17mg。</p> <p>白色のフィルム状のもの。</p> <p>異物はメチレンブルーで青く染色され、表面及び断面部分に植物細胞を認めた。当所で用意したタマネギと構造が類似していた。</p> <p>タマネギ(セルロース)に類似した吸収スペクトルを認めた。</p> <p>植物片(タマネギ)と推定された。</p>
ロールパン中の異物	<p>繊維状のものがパンの中に入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクログラフ</p> <p>赤外分光分析</p> <p>対照品検査</p> <p>結果</p>	<p>一部がパンに埋もれた白色の細かい繊維の集まりを認めた。</p> <p>繊維が数本でよられていた。</p> <p>ナイロン樹脂に類似した吸収スペクトルを認めた。</p> <p>対照品の成形機のフェルトはウールであった。</p> <p>ナイロン繊維の集まりと推定された。</p>
ビスケットの異物	<p>ビスケットの表面に白い小さな異物が付いていた。</p> 	<p>外観</p> <p>デジタルマイクログラフ</p> <p>赤外分光分析</p> <p>結果</p>	<p>ビスケットの周辺に長さ1～2mm×幅0.1mmの白色の針状の固まりを20個程度認めた。</p> <p>容器の縁部分に異物に類似した針状の固まりを認めた。</p> <p>ポリスチレン樹脂と類似した吸収スペクトルを認めた。また、透明なトレーもポリスチレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。</p> <p>ポリスチレン樹脂の細かな破片と推定された。</p>
給食(カレー)中の異物	<p>金属の小さな破片が入っていた。</p> 	<p>外観</p> <p>磁性</p> <p>デジタルマイクログラフ</p> <p>マイクロアナライザー</p> <p>結果</p>	<p>長さ6mm×幅0.4mm、重さ1.1mg。銀色の金属片。</p> <p>磁性を認めた。</p> <p>片側は光沢のある滑らかな金属面で、反対面は凹凸のしわの多い状態であった。</p> <p>鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。(対照品と同様であった)</p> <p>ステンレスの破片で形態から金属へのバリと推定された。</p>

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
フルーツ白玉中の異物	金属片が入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ8mm×0.4mm、重さ1mg。銀色の金属片。 両先端が尖り、螺旋状にねじれた状態の金属片。 鉄とスズの元素を認めた。 缶の切りくずと推定された。
ちらし寿司中の異物	ガラス様の固まりが入っていた。 	外観 赤外分光分析 結果	大きさ3mm×2mm×0.5mmで重さ4mg、 大きさ4mm×4mm×2mmで重さ28mg。 2個の透明で淡い水色をしたガラス様の固まり。 ガラスと同様な吸収スペクトルを認めた。 ガラス片と推定された。
カレーライス中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 赤外分光分析 結果	大きさ7mm×6mm×1.5mm、重さ62mg。 淡褐色の硬い五角形の固まり。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。 また、灰化後のものは骨を灰化したものと同様な 吸収スペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。

【 食品添加物担当 】

細菌性食中毒検査結果

平成20年4月から9月までに食中毒およびその疑いで当所に検体が持ち込まれた120事例中、疫学的に食中毒と判定した事例は65事例でした。そのうち、病因物質(起因菌等)の確定した事例は47例(72.3%)でした。

食中毒起因菌の第1位(事例数)は、カンピロバクターで20事例(42.6%)でした。昨年度の8事例(26.7%)に比べ大幅な増加でした。ついで、サルモネラ、黄色ブドウ球菌およびセレウス菌が各2事例(4.3%)でした。また、腸管毒素原性大腸菌、ウェルシュ菌および腸炎ビブリオによる事例は各1事例でした。その内訳を表に示しました。

カンピロバクター食中毒事例で分離された菌株の大部分は、カンピロバクター・ジェジュニ(*Campylobacter jejuni*)でした。その血清型別は、これまでと同様に1つの事例から複数の血清型の菌が分離されました。カンピロバクター食中毒の主な原因食品は鶏肉です。鶏の腸管にはカンピロバクターが常在しており、市販の鶏肉も高い割合で汚染されています。したがって鶏肉を生のまま、または過熱不足で食したり、調理の際に二次汚染が起こることでカンピロバクター食

中毒は発生します。サルモネラ食中毒は、血清型 Typhimurium と Enteritidis による事例でした。サルモネラ属菌も動物の腸管に常在しているため、過熱不足で肉を食したり、調理の際の二次汚染や鶏卵の生食によって食中毒が発生します。黄色ブドウ球菌はヒトの表皮に常在しているために、食品を取り扱う人の手指によって食品が汚染され、その食品が長時間常温で保管されることで食品中にエンテロトキシンという毒素が産生されてその毒素を食することによって食中毒が発生します。今年は、夏に花火大会でおにぎりを原因食品とする食中毒が発生しました。セレウス菌は環境中に存在する菌で環境中の菌で汚染された食品を長時間保管すると毒素が産生され、その後食することで食中毒を起こします。

なお、本年度の4月から9月までと、平成16年度から19年度までの4年間の食中毒事例数を図に示しました。

表 起因菌別事例数(4～9月)

起 因 菌	事例数
カンピロバクター	20
サルモネラ	2
黄色ブドウ球菌	2
セレウス菌	2
腸管毒素原性大腸菌	1
ウェルシュ菌	1
腸炎ビブリオ	1
その他 *	18
不明	18
計	65

* 細菌性以外の事例

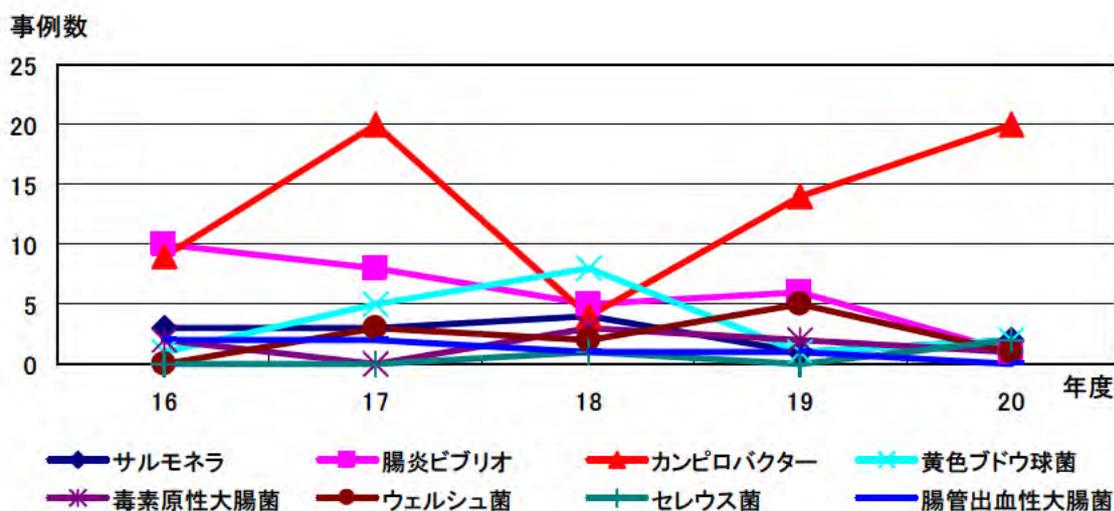


図 食中毒検出件数

【 細菌担当 】

医動物検査

医動物担当における平成20年7～9月の検査件数を表に示しました。

【行政検査:福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が3件(木綿豆腐に混入したチョウバエの一種、湯飲み茶碗に付着したメイガ科の一種、カップめんと包装の間に混入したヒメマルカツオブシムシの幼虫)、種類同定検査が126件(アメイロケアリ、アリゲモ属の雄成体、ヒメヨコバイ科の一種、ヒメハラナガツチバチの雄、カクムネヒラタムシ属の幼虫、クサアリモドキ、ヨコバイ類 104件、ハエ類 8件、ハネカクシ類 3件、ゲンバイムシ科、チョウバエ科、ハチ類、アリ類、ガ類)でした。

ウエストナイル熱媒介蚊調査のために、市内公園や港湾地区などで週に1回ライトトラップを用いて採集された蚊を分類同定しました。7月から9月に14回(1回10定点)調査を行いました。期間中に採集された蚊は、9属11種、3,291個体(雄を含む)でした。本調査は10月下旬まで継続実施します。

【依頼検査:市民、事業者からの有料依頼】

種類同定検査が5件(オオナガシクイ、ショウジョウバエ科の一種、コクヌストモドキ、ヒラナガムクゲキスイ、ヒメマルカツオブシムシの幼虫)でした。

【その他:感染症媒介昆虫等の市内における生息状況を把握するために行う調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区、南区(2定点)でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。7～9月中に48定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、51定点で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息状況調査を実施しました。7～9月中にのべ549か所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、中区(5回:8か所)、磯子区(3回:20か所)及び保土ヶ谷区(4回:400か所)において雨水枡における蚊幼虫調査を行いました。また研究所周辺のヒトスジシマカ生息調査を65か所で行いました。

検査試験項目	平成20年			平成20年		
	7月	8月	9月	4～9月		
行政検査	種類同定検査	2	123	1	132	件
	食品中異物検査	1	1	1	8	件
	ウエストナイル熱蚊検査					
	採集地点数	50	40	50	160	定点
	個体数	957	963	1,371	3,477	個体
依頼検査	種類同定検査	2	2	1	8	件
	食品中異物検査				0	件
	発生状況調査(ダニ類)					
	調査回数				0	件
	個体数				0	個体
	殺虫剤効力試験				4	件
その他	ゴキブリ調査	166	208	175	1,219	カ所
	飛翔昆虫調査	16	16	16	102	定点
	その他の調査等	115	143	235	766	件
	問い合わせへの回答	12	14	18	98	回

検査試験項目等 解説

種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業(18区)」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。なお、採集した蚊につきましてはウイルス担当において日本脳炎ウイルスの検査もしております。

ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

その他の調査等

20年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。



幼虫は、主に動物質の食品、毛織物などを食べます。ご注意ください！

写真:ヒメマルカツオブシムシの幼虫

【 医動物担当 】

平成20年度 屋外プールの水質実態調査

横浜市18区内の屋外プールにおける衛生管理状況の把握を目的として、屋外プールの水質実態調査を行いました。

1 対象施設及び試料

(1) 対象施設: 屋外プール42施設

(2) 採水日: 平成20年7月14日から8月6日

(3) 試料: 大プール44面*¹、小プール36面*²、その他のプール(スライダープール、流水プール)8面*³の計88面

*1 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面の中央及び対角線両端の3試料を(一部中央のみ)採水

*2 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面1試料を採水

*3 規模に応じて採水



2 検査項目

(1) 福祉保健センター現場検査項目: 遊離残留塩素濃度(以下残留塩素)、pH、水温*⁴

(2) 衛生研究所検査項目: 過マンガン酸カリウム消費量、濁度、一般細菌、大腸菌群

*4 水質基準に該当しない参考項目

3 検査方法

厚生労働省通知「遊泳用プールの衛生基準について」に定める方法に準じました。

4 検査結果

検査結果を表に示しました。水質基準を超過した試料は計35面(大プール20面、小プール13面、その他のプール2面)でした。基準超過項目と延べ面数は、残留塩素が34面、一般細菌が大プール2面でした。大腸菌群、濁度、pH、過マンガン酸カリウム消費量については基準に適合していました。遊離残留塩素濃度は0.4mg/L未満が計13面(大プール11面、小プール1面、その他のプール1面)の14.8%で、1.0mg/L以上が計21面(大プール8面、小プール12面、その他のプール1面)の23.9%で、望ましい範囲(0.4mg/L以上1.0mg/L未満)にあったのは計54面の61.4%でした。約40%のプールは残留塩素濃度の調節が適当ではないことが分かりました。一般細菌が基準超過した2面(220、210cfu/mL)は、同一施設の2面でいずれも地下水を原水としていました。この2面のうち、1面は残留塩素濃度が0.2mg/Lで基準に達していませんでした。残る1面は基準に達しており、残留塩素濃度が0.7mg/Lでした。この1面で検出された残留塩素については、遊離残留塩素か結合残留塩素かの精査が引き続き必要と考えられました。

表 屋外プール水質検査結果

検査項目	基準超過 (超過面数/検査面数)			水質基準
	大プール	小プール	その他	
遊離残留塩素	19/44	13/36	2/8	0.4mg/L以上 (1.0mg/L以下が望ましい)
一般細菌	2/44	0/36	0/8	200cfu/mL以下であること
大腸菌群	0/44	0/36	0/8	検出されないこと
pH	0/44	0/36	0/8	5.8以上8.6以下であること
過マンガン酸カリウム消費量	0/44	0/36	0/8	12mg/L以下であること
濁度	0/44	0/36	0/8	2度以下であること

【 水質担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 9月

今月のトピックス

麻疹報告数は引き続き減少していますが、第3期、第4期の予防接種率はそれぞれ41.4%、28.6%と低水準で、依然集団感染等のリスクがあります。未接種者に接種勧奨をお願いします。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の今後の発生動向に注意が必要

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年 週 - 月日対照表

第34週	8月18～24日
第35週	8月25～31日
第36週	9月 1～ 7日
第37週	9月 8～14日
第38週	9月15～21日

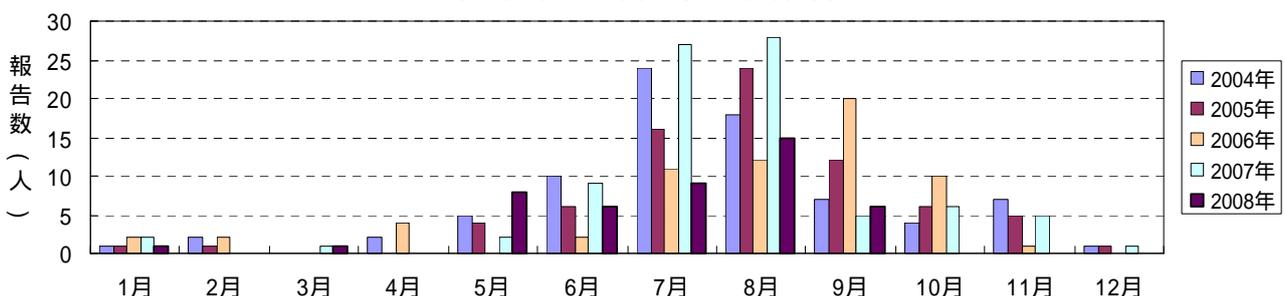
平成20年8月18日から平成20年9月21日まで(平成20年第34週から第38週まで。ただし、性感染症については平成20年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

9月の報告数は、25日現在で6例です。うち、無症状病原体保有者が3例です。年齢の内訳は、10歳未満が1例、20代が1例、30代が1例、50代が1例、60代が1例、70代が1例でした。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご覧ください。

<レジオネラ症>

9月は25日現在で4例の報告がありました。1月からの報告数は21例となり、多かった昨年とほぼ同じペースです。全国でも、第38週までの累計は654例と、かなり多くなっています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年38週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	654
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	37
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	21

レジオネラ症については、平成15年4月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致命的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われる。

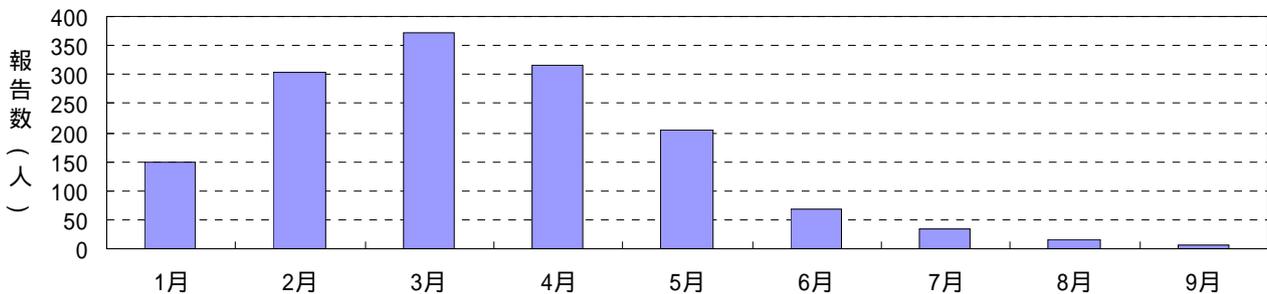
<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第38週(9/15～21)までの累計報告数は1466例で、全国の報告数10794例の13.6%です。最近5週間(第34週～第38週)の報告数は9例で、全国の報告数132例の6.8%となっています。年齢別では、約半数が10代で、予防接種前の0歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。

平成20年4月1日から6月30日までの第3期、第4期の予防接種率は、それぞれ41.4%、28.6%でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

定点把握の対象

<インフルエンザ>

8月下旬に市内の全寮制の訓練校でインフルエンザの集団発生がありました。有熱症状を訴えた者は20歳代男性を中心とした45名で、検体を採取した5名からA香港型が検出されました。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移していましたが、第34週は定点あたり0.21と例年並みになりました。その後少し増加し、第38週は定点あたり1.00でした。行政区別では港北区(4.17)、栄区(3.00)が高くなっています。例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.16と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.86、全国は0.81でした。

<手足口病>

第30週に定点あたり4.01とピークを迎え、その後減少しましたが、第36週は定点あたり2.50と増加しました。第38週は1.78です。行政区別では、中区(5.00)、港北区(4.67)、港南区(3.50)となっています。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.09、川崎市は1.47、全国は1.29でした。

<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月は、7月に比べて性器クラミジア感染症はやや減少傾向、淋菌感染症はやや増加傾向です。19歳以下の若年層については、男性はありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症で2例見られました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2008年9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は23件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点は3件(咽頭ぬぐい液1件、髄液2件、血液1件、便1件)でした。患者の診断名別内訳は、小児科定点は上気道炎14人、気管支炎2人、手足口病2人、ヘルパンギーナ2人、流行性耳下腺炎1人、胃腸炎1人、発疹症1人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人、無熱性けいれん1人、急性心筋炎・急性肝炎1人でした。

10月10日現在、小児科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルス、ヘルパンギーナ患者1人からエンテロウイルス71型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点の上気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA2型(1人)とコクサッキーウイルスA10型(1人)、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA16型、ヘルパンギーナ患者1人からコクサッキーウイルスA6型が検出されています。また、基幹定点の無菌性髄膜炎患者の検体(髄液)からは、コクサッキーウイルスA16型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は6菌株で腸管病原性大腸菌が2件、腸管出血性大腸菌1件が検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は1件でA群溶血性レンサ球菌が1件検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課(細菌担当・ウイルス担当) 】

感染症発生動向調査における病原体検査9月

感染性胃腸炎		2008年9月			
検査年月		9月		2008年1～9月	
定点の区別		小児科	基幹	小児科	基幹
件数		6		65	
菌種名					
サルモネラ					
腸管病原性大腸菌		2		2	
毒素原性大腸菌				1	
組織侵入性大腸菌					
腸管出血性大腸菌		1		3	
腸管凝集性大腸菌					
黄色ブドウ球菌					
カンピロバクター					
不検出		3		59	

呼吸器感染症等		2008年9月			
検査年月		9月		2008年1～9月	
定点の区別		小児科	基幹	小児科	基幹
件数		1		40	
菌種名					
A群溶血性レンサ球菌		T1		1	
		T3		8	
		T4		6	
		T6			
		T12		7	
		T13		1	
		T25		5	
		T28		3	
		T型別不能			
B群溶血性レンサ球菌					
G群溶血性レンサ球菌				1	
インフルエンザ菌					
パラインフルエンザ菌					
黄色ブドウ球菌					
髄膜炎菌				1	
インフルエンザ菌					
不検出		0		8	
				0	

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【細菌担当】

由来別病原菌検出状況 9月

2008年9月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	9月	2008年1-9月	9月	2008年1-9月	9月	2008年1-9月
コレラ O - 1		1				
O - 1以外		1		4		
赤痢菌 A						
B		3				
C		1				
D	1	7				
その他						
チフス菌		3				
パラチフスA菌		4				
その他のサルモネラ						
O4群		1				
O7群		6				
O8群						
O9群	1	1				
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌	2	2				
毒素原性大腸菌		10				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	12	34			1	1
腸管凝集性大腸菌		1				
腸炎ビブリオ	2	2				
黄色ブドウ球菌		28				3
カンピロバクター	16 *	50			2	4
ウェルシュ菌	5	11				1
A群溶血性レンサ球菌	1	30				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ		1				
セレウス菌	2	4				7
その他		1				
取り扱い件数	395		3		212	

* 1株は食中毒患者より分離された *Campylobacter coli*

【細菌担当】

第 15 回衛生研究所施設公開を終えて

第 15 回衛生研究所施設公開(安全・安心なくらし 衛生研究所展)を平成 20 年 6 月 6 日(金)に実施しました。

当日は天候にも恵まれ、市民の皆様を中心に 95 人の来所者がありました。

施設公開は、昨年度と同様に実験室、廊下等のスペースにパネルの展示及び体験コーナーを設けるとともに、最近話題となったことを解説するミニセミナーを 5 階講堂で開催しました。午前の部は「中国産冷凍餃子の検査結果」、「結核の現状と新しい検査法について」、午後の部は「シックハウス対策について」、「麻しん(はしか)について」のテーマで職員が解説しました。

来所者にアンケートをお願いし、51 名の方から回答をいただきました。その結果では展示やミニセミナーは概ね分かりやすく日常生活に役立つと評価を頂きました。一方、以前に比べると体験型のコーナーが少ない、専門用語が多く分かりにくい等の意見も頂きました。来所者は午前中が多く、午後が極端に少なかったため、午後の参加者の確保が課題となりました。また、アンケートにおいても「見学者が少ない」、「休日に開催したほうが参加しやすい」との意見を頂きました。

今回の施設公開を通して、衛生研究所が日常生活に密着した検査や調査研究を行っている施設であることを理解していただけたと思います。頂いた貴重な意見を次年度の施設公開に反映させ、健康福祉局をはじめ関連機関の皆様のご協力をいただきながらより良いものにしていきたいと思ひます。



【 第 15 回衛生研究所アピール委員会 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度8月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度9月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年8月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年9月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2008年8月)

2008年8月の総アクセス数は、110,221件でした。主な内訳は、感染症46.2%、食品衛生25.5%、保健情報10.0%、検査情報月報3.5%、生活環境衛生2.9%、薬事2.1%でした。

(2) アクセス順位 (2008年8月)

8月のアクセス順位(表1)は、「マイコプラズマ肺炎について」が第1位でした。

2位が「百日咳について」でした。

9位に「A群溶血性連鎖球菌感染症について」が入っています。

国立感染症情報センターによると、2008年第39週(9月22～28日)における定点当たりの報告数は、「A群溶血性連鎖球菌感染症」は増加しており、「マイコプラズマ肺炎」と「百日咳」は減少傾向を示していますが、いずれの疾患も過去5年間の同時期と比較すると多くなっています。

第5位に「大麻(マリファナ)について」が入っています。これは、大相撲のロシア人力士による大麻所持事件が、マスコミに取り上げられた影響と考えられます。

表1 2008年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	5,380
2	百日咳について	2,886
3	ちょっと専門的なデータシート	2,033
4	英字略語集(ABC順)	1,824
5	大麻(マリファナ)について	1,171
6	よくある苦情事例集	1,145
7	食品添加物における用語説明	1,089
8	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	1,051
9	A群溶血性連鎖球菌感染症について	1,033
10	手足口病について	1,032

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年9月)

2008年9月にホームページのお問い合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、3件でした(表2)。

表2 2008年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
チャドクガについて	1	衛生研究所
バナナのアレルギーとビニール袋を使用した調理について	1	衛生研究所
感染症サーベイランスについて	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年9月)

2008年9月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 2008年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月3日	英字略語集(ABC順)	更新
9月3日	健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について	更新
9月3日	流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)について	更新
9月5日	セラチア菌による院内感染、日和見(ひよりみ)感染について	更新
9月10日	感染症に気をつけよう(9月号)	追加
9月12日	ウエストナイルウイルス(蚊)の検査結果	更新
9月19日	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	更新
9月26日	業務実績(平成19年度)	追加
9月26日	各課・担当の実施する調査研究	追加
9月29日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】